

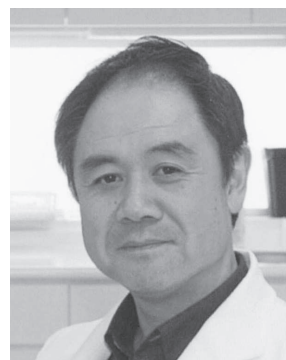
新 郡市医師会長 インタビュー

第 7 回 熊毛郡医師会長 齊藤 良明 先生

と き 平成 29 年 3 月 9 日 (木)

ところ (医) さいとう整形外科

[聞き手：広報委員 津永 長門]



津永委員 本日は、昨年、熊毛郡医師会の会長になりました齊藤良明先生にお話を伺いたいと思います。ご多忙のところ、インタビューの時間をいただきまして誠にありがとうございます。

まず熊毛郡医師会についてご紹介していただけますか。

齊藤会長 まず会員の構成ですが、A 会員 12 名、B 会員 8 名、C 会員が 2 名の合計 22 名で、物故の先生を含めて前年度より 3 名減となっております。診療所は 13 機関で、うち 2 機関が有床診療所です。病院は光輝病院、介護老人保健施設も光輝病院関係の 1 機関です。A 会員に注目してみますと、30 代が 1 名、40 代が 5 名となっており、A 会員 12 名のうち 40 代未満が 6 名ということで、大変若くて活力溢れる、人数の少なさ、寂しさを感じさせない医師会です。

事業の内容は他の医師会と同様と思いますが特定健診、予防接種、学校保健、産業保健、介護保険、そして柳井医師会と合同で行っている休日夜間診療所などで、行政と連携を図りながら行っています。また、事業の一つであります周南医学会を平成 28 年度は当会の担当で行い、特別講演で

片腕のプロゴルファーとして有名な小山田雅人さんを講師としてお呼びして盛大に開催し、多くの方に支えられて無事終わることができました。医師会活動は、月 1 回、研修会とそれぞれの連絡会を兼ねて全会員で平生まち・むら地域交流センターで行っています。当会の特徴ですが、固定的な事務局がなく、また会長職は 2 年ごとの輪番制というルールがあることから、私も入会して 6 年目で会長に就任しました。3 年前の曾田会長の時までは田布施・平生・上関の先生が順番にされていたんですが、人数が少なくなったということもあって、地区に関係なく、年齢順ということになり、近藤前会長の後は少し歳が離れた私になりました。初めての業務で戸惑うこともありますが、当会の先生方や県医師会の先生にご迷惑をおかけすることがないように、代々作成されている引継書を頼りにしながら、なんとか業務を行っております。

魅力は 2 年ごとに会長が代わることによって事務局も移転するため、会員数自体は少ないですが、その分、会員同士の繋がりが強くなるということがあります。ただ、今後は、県医師会との連携をさらにスムーズにするためにも、固定した事務局が作れたらと考えており、会長等役員はそこ

に集まれるように、そして専属の事務員さんが確保できたらよいと思います。

津永委員 ご紹介ありがとうございました。会員数が少ないので、会員の高齢化が進んでいるのかと思っていましたが、若手会員が想像以上に多いことに驚きました。

斉藤会長 とにかく魅力ある医師会にしていかなければいけないとは思っております。

津永委員 休日夜間診療所は柳井医師会と合同ということですが、どちらに設置されているのですか。

斉藤会長 平成 19 年から柳井医師会と当会の合同で立ち上げ、柳井市に設置し、建物を借り上げています。

津永委員 運営には郡市の補助がありますか。

斉藤会長 休日診療所運営委員会がありまして、市が運営しています。

津永委員 休日夜間となると、どの医師会も当番を廻すのに苦労されているようですが、だいたい何か月に 1 回ぐらい廻ってきますか。

斉藤会長 感覚的な話になりますが、平日は 1 か月半から 2 か月に 1 回ぐらいでしょうか。お盆や正月は別ローテーションとなっており、それとは別に日曜日・祝日に当たるのが年に 2 回ぐらいです。

津永委員 全科の先生が対象ですか。

斉藤会長 そうです。

津永委員 皆さん協力されて一次救急はそれで大丈夫ということですね。

斉藤会長 時に小児科医の応援がありますが、基

本的に一人の医師で対応します。私は昨夜が当番だったんですが、インフルエンザやリストカットした患者を診ていました。内科・外科不問ですので全科当直の経験がないと大変で辛いとは思いません。

津永委員 今の研修医制度の先生たちはローテーションで各科を廻られているから大丈夫なのではないでしょうか。何かあった時は二次救急として周東総合病院が受け入れてくださる体制でしょうか。

斉藤会長 そうです。ただ、小児患者を含めて、当直医の専門性などもあり、調整に困ることもありました。

津永委員 先生も言われてましたが、郡市医師会の事務局は固定できる方がよいと私も思いました。

斉藤会長 それには目的があると思います。郡市医師会の役割である県や行政との繋がりをそれぞれの地域が持つという点で考えると、引き継ぎながらいくのではなく、ある程度ノウハウを持った事務職員が居るべきだと思います。

津永委員 引継書には伝統があるようなので問題はなさそうですね。会員への連絡については、緊急の場合は FAX やメールを利用されているのですか。

斉藤会長 県医師会からの郵便物がドッサリ送られてくるので、まず県医師会から当会に送られてきたものと、当院に送られてきたそれ以外のものに分けて、県医師会からのものについては、当院のスタッフ 1 名を医師会専属としておりますので、さらにいくつかのカゴに分けてもらい、それを私が診療の合間に見て、緊急を要するものとは振り分けて、緊急を要するものについては FAX 送信するようにしています。

津永委員 そうしますと、やはり凄い手間と事務

量になりますよね。

斉藤会長 そうなのですが、1 年経験しますと、だいたいパターンが見えてきまして、機械的にできるものは事務員に任せるようにしています。

津永委員 それでもやはり 2 年が限度でしょうね。それ以上されると、大変なことになりそうですよね。

次に新会長になられてから見えてきた課題や抱負がありましたら、お聞かせ願えますか。

斉藤会長 当会の抱負としては、フットワークとチームワークを大事にして行政や近隣の医師会と一緒にいろいろなことをやっていきたいと考えています。私自身の理念としては、少し前までは医師の仕事というのは命を救うとか病気を治すというのが仕事であり、学生時代や先輩からそのように教わってきたと思うんですが、今は求められていることが、超高齢社会を迎えて、老々介護をしている人を支えていくとか、そういうことへの橋渡しの役割が凄く増えているように思います。生きていくうえでのクオリティー、生活の質を求めるようになってきているところで、医師が地域包括ケアを推進していくうえでコメディカルと協力したりとか、科を超えた繋がりにおいて、どのようにして間に入って話をし、地域全体で支えて行けるか、そしてリーダーシップを取っていけるか、そういうことができる会長になりたいと思います。また、次世代の先生方にも、町医者にはそういう役割もあるということで、魅力を伝えていき、好循環になるようにしていきたいと思っています。

津永委員 いま、どこの医療圏でも地域包括ケアや医療介護の連携システム、ネットワークを構築するように国の方から求められていますが、熊毛郡医師会では上手くいきそうなのでしょうか。

斉藤会長 県医師会にも地域包括ケア担当理事会がありますが、現状なかなか進んでいないかと思えます。熊毛郡も同様です。22 名の会員で 3

町担当しており、役場の窓口が一本化しているわけではないので、そこがなかなか前に進まない理由です。

津永委員 行政の絡みとなると、調整もかなり難しいですよね。

斉藤会長 具体的にチェック項目でどんどん進んでいるというところまで至っていませんので、これからの課題と言えると思います。

津永委員 小回りが利く分、医師会としては一体となって、まとまりがあるのではないのでしょうか。

斉藤会長 何でも相談し合えるという意味では、総勢 22 名のコンパクトな病院の医局ですので凄く連携が良いです。

津永委員 そのように考えれば非常に理解できます。先程の救急医療のお話にも関連しますが、先日、周東総合病院の馬場院長にお話を伺った際に「病診連携をもっと大事にしたい」と仰っていましたが、これについてはいかがですか。

斉藤会長 周東総合病院は、当会に対しても積極的にアプローチをされています。先日は雪のため開催できませんでしたが、勤務医・開業医との顔が見える関係作りを図ることを目的に交流会を企画されました。改めて 4 月に行われる予定ですが、地域連携室が積極的に外に出て来ておられます。

津永委員 いろいろ問題はあられるかもしれませんが、22 名の医局ということで考えてみると、いろいろな可能性があり、対応もできますし、若手もたくさんおられるので、未来に非常に期待ができる医師会ですね。

次に先生ご自身のことについてお伺いしたいと思います。ご出身はどちらですか。

斉藤会長 柳井市伊保庄です。柳井高校から島根大学医学部、山口大学大学院で学び、山口大学整形外科に入局しました。その後、光市立大和総合

病院が初出向先でした。

津永委員 河野先生が整形外科部長の時ですね。私も 3 年目に 1 年間赴任しましたが、当時は大和町立の大和総合病院で、言葉は悪いですが、町立の田舎の病院かと思っていましたが、整形外科は、手術件数も凄く多く、リハビリにも力を入れておられ、驚いたのを思い出しました。

斉藤会長 研修期間は 1 年間だけでしたが、待合室に患者さんがあふれていたのを覚えています。その後は鼓ヶ浦こども医療福祉センターに出向しました。整形外科は凄くジャンルが広いんですが、私が大学で一番仕事をさせてもらった専門が小児整形でした。整形には保存療法と手術療法、そして装具療法がありますが、歩けない子どもが装具を付けて歩いたり走ったりする、凄く顕著に結果が出やすいところで、身体障害の領域で何を補ったらどうなるかということを楽しく学ばせてもらいました。また、このセンターから、田口教授をはじめ山口大学整形外科教室のご指導で、大学の小児整形外科外来に非常勤講師という形で出向もさせていただきました。

津永委員 最近、パラリンピックもよく放映されているので見る機会が増えてきましたが、装具等は凄く発達、進歩していますよね。

斉藤会長 今は凄いです。サイバロンですか、手がないのに、ロボットみたいな手を付けて、脳からの刺激で動かす、いわゆる切断とか、ものを掴んだりしたりするなど、いわゆる義手とか義足が昔とは全く違ってきています。最初は装飾用義手ということで見かけだけだったんですが、今は嵌めたまま電気で動かすということで凄いですよね。

津永委員 次に、開業されたのは、いつですか。また、この地を選ばれた理由を教えてくださいか。

斉藤会長 平成 22 年 7 月に開業しました。昔か

ら医師になりたくて、とにかく地元で仕事があったというのが理由です。

津永委員 一般の整形外科の患者さんが主だと思いますが、先生の専門が小児の整形ということで来られる患者さんも多いのでしょうか。

斉藤会長 子どもが多いです。鼓ヶ浦でやっていたような乳児、例えば昔は先天性股関節脱臼の検診とかは、育児指導の充実や子どもの数自体の減少もあってほとんどなく、いわゆる学童期のスポーツの怪我などが多いです。それから学校の運動器検診ですが、校医の先生が診られて、二次検診を要する場合は私の診療所で診させてもらっています。逆に言うと、運動器検診自体がやり方が確立されておらず、親御さんのアンケートを見て、検診を行った医師が親御さんが問題点を指摘しているのに、大丈夫よとは言えないので専門へ行ってみなさいとなるから、それをみんな診るんですが、これは検診なのか、それとも普通に被保険者証を使って受診しているのかが分からなくなる時があるぐらい診ています。

津永委員 学校の運動器検診で、アンケートに親御さんが気になることがあったら書かれますよね。そうしたら整形外科の先生に全部廻って来ますよね。

斉藤会長 整形外科の専門医は支援学校以外の一般学校での校医になれません。このため一般の学校では、他の科の先生が整形外科的なことを含め全部チェックしないとイケません。このシステムはどうなのかなって私は思っています。

津永委員 それは大変ですね。

斉藤会長 チェックする項目の中に、例えば成長期のオスグッド病とか、特徴的なものをひっかけるようにはなっています。小児整形なので、やりがいがあります。

津永委員 子どもの数が少なくなったという印象

はありますか。

斉藤会長 平生町と田布施町は、人口比率からみますと子どもは結構居るらしいです。

津永委員 次にご趣味について教えていただけますか。

斉藤会長 ピアノ演奏です。

津永委員 詳しく教えていただけますか。

斉藤会長 正確に言いますと音楽鑑賞なんですけど、大学時代には軽音楽部に入っていました。Japanese fusion グループの T-SQUARE の和泉宏隆とかカシオペアの向谷 実とかが大好きで、好きな人と集まってバンドを始めました。ピアノと言いましたがキーボードが好きで弾いており、今でも大学の OB 会に行っています。

津永委員 私の息子も大学の軽音楽部でキーボードをやっていますが、ライブばかりしていて、勉強しているのが心配です。

斉藤会長 先生の息子さんだったら心配されなくても大丈夫でしょう。キーボードはコードとスケールを覚えると、譜面があるだけで、パッとハモッて合わせていくことができます。音の追究、音の再現性と言いますか、キーボードでも Nord 製のキーボードを購入すれば CD と全く同じ音が出せます。私は CD をかけながらミキサーに繋



いでいるので音を出すと CD と全く同じ音が厚くなって出て、それをさらにヘッドフォンで聴きながら自分に酔ってます。

津永委員 自分でプロとセッションできるわけですね。

斉藤会長 そうです。プロの曲にハーモニーを加えて弾いていきます。いわゆる一人ピアノセッションでして、凄くディープな世界です。

津永委員 それでストレスを発散されているのですね。ゴルフもされるとお聞きしましたが。

斉藤会長 昔からやっていて下手なんですけど、健康づくりと思って、よく参加させてもらっています。

津永委員 最後に座右の銘を教えてくださいませんか。

斉藤会長 座右の銘と言えるかはわかりませんが、「正々堂々」という言葉が大好きです。高校野球等の選手宣誓でよく使われる「正々堂々と戦うことを誓います」というやつです。この「正々堂々」とは、中国の古典「孫子」に出てくる言葉で、元々は「正正の旗」、「堂堂の陣」と、2つの単語として使われていたそうです。「旗が正正としている」とは、旗が乱れずに行進しているということ、「陣が堂堂としている」とは、大きな建物のようにしっかりとした構えの軍隊ということで、孫子が言いたかったことは「正正の旗」の軍隊を迎え撃ってはいけない、「堂堂の陣」の軍隊を攻めてはいけないということらしいです。なぜなら、こうした「正々堂々」の敵と戦うと負けるからであって、孫子は勝つことよりも、どうしたら負けないかということを説いているらしいです。

「正正の旗」の「旗」を別の言葉に言い換えれば、ビジョンとかミッションになるかと思います。組織が高く掲げる旗、すなわちビジョン・ミッションが広く社会の賛同を得られるものなのか、周りから応援したいと思われるものなのか、私は常に

自分に問いかけて行動しているつもりです。私利私欲で掲げる旗は「正正の旗」ではないと思いますので、「正々堂々」という言葉が大好きです。

津永委員 今のお話をアメリカの大統領に聞かせたいですね。

斉藤会長 その言葉が好きな理由の一つにスポーツが好きということがありますが、特に小さい頃にレスリングをしていたからだと思います。

津永委員 柳井に斉藤道場という有名なレスリング道場がありますが、そちらでされていたんですか。

斉藤会長 実はあの道場は私の大叔父が開設したもので、小学校 6 年生まで私も道場生でした。先日、リオオリンピックに当道場出身の太田 忍選手が出場し銀メダルを獲得してくれて、非常に嬉しかったです。

津永委員 本日は、いろいろなお話をお聞かせいただきまして、大変ありがとうございました。先生の今後ますますのご活躍を祈念しております。

穏やかな話しぶりの中にも斉藤先生の熊毛郡医師会に対する熱い想いが感じられました。そして、キーボードに触れられ音楽について語られる時の先生の嬉しそうな表情も印象的でした。



表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会広報・情報課

E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp